

イボイモリ南部希少個体群の保全事業

一般財団法人 沖縄美ら島財団

一般財団法人沖縄美ら島財団は、沖縄美ら海水族館の運営管理のほか、40年以上にわたり国営公園の管理運営、亜熱帯性の動植物に関する調査研究、技術開発や普及啓発を実施してきました。さまざまな取り組みの中で培ってきた成果とノウハウを生かし、生態系の危機などの様々な環境問題に対応し、沖縄の自然環境の保全、歴史文化を活かした観光と持続的な地域振興を目指して活動しています。

【活動背景】

オキナワイボイモリ *Echinotriton andersoni* は、沖縄県にのみ生息する希少な固有種です。国内希少野生動物種および天然記念物で保護されているイボイモリですが、水辺の生息環境の破壊や密猟などの影響で近年その数は減少傾向にあり、早急な保全のための取り組みが必要です。



オキナワイボイモリ
Echinotriton andersoni
画像提供：国営沖縄記念公園（海洋博公園）
沖縄美ら海水族館

【活動目的】

これまでの調査で、沖縄南部の個体群が深刻な絶滅の危機に瀕していることが判明しました。南部のオキナワイボイモリを守るために、生息域での調査活動に加えて、当該地域のイボイモリを採捕し、それらを沖縄美ら海水族館で飼育・繁殖することによって個体群を絶滅の危機から救うことが大きな目的です。加えて、野生生物の保全事業についての普及啓発を目的とした展示も計画されました。



当財団の助成金によって導入された資材（一部）

【助成金の用途・活動結果】

当財団の助成金は、オキナワイボイモリの飼育・繁殖に必要な設備の充実や、生息地のモニタリング調査のためのマイクロチップの費用に役立てていただきました。当初予定していた南部の個体群から雌雄2個体ずつの採集に成功しました。水温、湿度、底質など飼育に適した環境を整備できたおかげで、現在も順調に飼育が進んでいます。今後は、生息地での産卵状況に関するデータを蓄積し、飼育下繁殖への取り組みを行うことが予定されています。

【団体からのメッセージ】

オキナワイボイモリは、世界でも沖縄県にしか生息していない希少なイモリの仲間です。特に沖縄県南部では、開発による生息地の分断などで個体数の減少が続いています。本種は、沖縄島北部や渡嘉敷島にも生息していますが、それぞれに遺伝的な差異があるため個体群を守ることは大きな意義があります。沖縄美ら海水族館では、貴財団の助成を受け、今後もこの希少なイモリの保全活動に取り組んでいきます。